月刊

「勉強が苦手」というのは、本人もつらい思いをしています。 「勉強をやらせる」よりもまず、「子どもの状況を理解してやる」 ことが、その悩みの解決策になるはずです。

来年1月まで毎月読み物としてお届けします。

バックナンバーは毎月ブログに掲載いたしています。

ぜひ、もれなくチェックください!

http://supports.mo-blog.jp/blog/

VOL.1 「やる気」とは何か?

VOL.2 考え方にも個性がある!?

VOL.3 「見えてない」から出来ない!?

VOL.4 知識不足が「できない」の原因ではない!?



今月のテーマ

発行:個別指導・学習塾 サポーツ京田辺 新田辺駅東側サンフレッシュ2階 0774-65-1316

「勉強が嫌い」「やる気がない」と言われる状態とは、それは、「気持ちがない」のではなく、実は、「やる気があるとみなされる行動ができない」という、決して"本人の気 持ち次第"ではないことの方が多いのです。 それを理解してあげるためには、指導する側の大人が、 子どもの状態を理解してあげることが求められます。そ のための最先端知識を、専門家を招いて学ぶセミナー を開催いたします。

主催:サポーツ京田辺

2014

会場:京田辺商工会館CIKビル 4階キララホール



定員:140名(原則事前申込)

(京都府商工会連合会の補助金事業として実施します。)

著書:「子どもはことばをからだで覚える」「ケータイをもったサル」「ヒ トはなぜ子育てに悩むのか!「ヒトはいかにしてことばを獲得したか!「天 才はなぜ生まれるか! 「団塊のジジババが日本をダメにする!等

門家である米国国家資格ドクターオブオプトメトリーを取得 現在、視機能トレーニングセンターJoyVision代表として、子どもたちやス ポーツ選手の視覚機能検査とトレーニングに携わり、県立視覚支援学校の 北出勝也氏 著書:「学ぶことが大好きになるビジョントレーニング」「発達障害の子

のビジョントレーニング」等

大手進学塾にて国語の講師を勤め、生徒指導歴は20年を超える。在職時代 から、'やる気'や'自己肯定感の差'は未就学時期の過ごし方に大きく起因す 普及しながら、子ども・母親・親子向けの様々なイベントを企画運営。

4	1
	

	E/20:0/3 51	
unnorto/ndf	loominar n	٦

詳細はこちら⇒http://www4.ocn.ne.jp/~supports/pdf/seminar.pdf

くお申込方法>下記項目を、このままFAXもしくはmail・TELでお申込ください。

氏名:	・職業(所属団体など)
・住所	■電話番号

脳の本能から理解する子どもの行動。成功できないにも理由がある。

この秋にサポーツ主催のセミナーで脳神経外科医である林成之氏が提唱する 「育脳メソッド」を学ばれた、「育脳インストラクター」中島みちる先生をお招きしますので、 林先生の著書から予習をしておきたいと思います。引用文献: <勝負脳>の鍛え方

林先生によると、「脳には7つの本能」があります。

<脳の神経細胞に由来する本能>

●生きたい ●知りたい ●仲間になりたい



<脳の組織由来する本能>

- ●自己保存・・・「生きたい」に根ざした「自分を守ろうとする本 能し。情報の好き嫌いや興味の有無、危険性などを判断する機能
- ●自我・・・「自ら達成し、ごほうびを得ようとする機能」。生ま れた直後からおなかがすくと泣いてそのことを伝えようとする。
- ●統一、一貫性・・・似たものを区別したり物事の筋道を通したり して「情報を理解する機能」。ゆえに、人間の脳は、統一・一貫性 を保てなくなるような環境の変化が苦手だったり、周りの人と考え や行動をそろえたがるという傾向があります。

<脳の組織連合による本能>

●違いを認めて共に生きる・・・人間の脳が『考え』を生むために 基盤となるもの。脳がそれぞれの組織の差異を乗り越え一体となっ て機能している

細胞由来の本能は、非常に強固で、消し去ったり変えたり することはできませんが、組織や組織連合によるものは、 考えや行動を変えることによってある程度コントロールし たり、よりよく働くように鍛えたりすることができます。 また、同時に脳は「過剰反応をするもの」であり、ある本 能にひきずられて、バランスを崩して身を滅ぼす可能性が あることをしっておくことが、脳の能力を発揮するするの に非常に大きなポイントなのです。



スポーツなどにおいて、「おまえはできない。だめだ」と叱りながら意欲を高めて、その成果を 引き出そうとする指導がよく行われています。 新しいことや正しいことを強制的な力を持って植えつけるという意味で、この指導法にもプラス の効果があることは否定できません。

しかし、見逃せないマイナスの作用があります。 自分を守りたい「自己保存の本能」によると、しょっちゅうしかられていると脳は苦しくなって、 脳自身を守るために叱っている人の話を受け流すようになります。

その状態が慢性化すると、だんだん人の話しを聞かない脳ができあがっていきます。 その結果、間違った考えをしても気がつかない、少し間違っても気に留めない、訓練 が長続きしない、習得がなかなか難しいといった困難から逃げてしまう脳、いわば逃 避脳を作り出す結果になってしまうのです。

この社会は常に進化する方向にあるので、現状を維持しているままでは、努力を怠ってるわけ でなくとも、取り残されてしまいます。私達がこの下り坂から方向を変えて、目的を達成するた めには、何を考え、何をすればよいのか?脳の習性に基づいて考えると・・・

- ①目的と目標を明らかにする
- ②目標達成の具体的な方法を明らかにして実行する。
- ③目的を達成するまでその実行を中止しない。

簡単なことのようですね。

しかし実際に私達は、こんな簡単なことができない生き方をしているのです。

①「がんばります」だけでは何も変わりません。 最終的な目的とそこに到達するための目標を区別して考えねばなりません。

②「前回負けたのでもっとがんばる」では、負けた理由や自分が鍛えるべき内容が正しいか不 明なので、また負ける可能性があるのです。

③目標や具体的解決策が明らかになっても、それがすぐに達成できるのは少ないものです。 なぜなら、本人だけの問題だけでなく、達成するための環境が整っていないためであることが しばしばあるからです。

そうなると、"自己保存"に従い、理由をつけて方向転換しようとします。しかし、それは賢い選 択だと考えても、"目的未達成"には違いありません。「計画ができなかった」ということを一度 体験してしまうとクセになって、「何をやってもいつも達成できない脳」ができてしまうのです。

他の塾でうまくいかなかった方や 3/ 不登校などでお悩みの方など、

一度、お気軽にご相談ください。

